



みどりの風



2025

9.19

VOL.9

富原小学校ホームページ

<https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/83/>

Ⅰ 積み重ねと考えること 運動会の練習で

9月27日（土）は運動会です。楽しみにしながらがんばろうとしている子どもたちの姿があります。

表現の練習も真剣でのびのびと取り組んでいます。学習指導要領の「体育」の「表現領域」として、低学年は、軽快なリズムの音楽に乗って踊る楽しさに触れること、中学年は、イメージの世界に入り込んで交流しながらリズムダンスを楽しむこと、高学年は、日本や世界の地域の踊りを通して交流することが示されています。これらのことを踏まえて、自分たちで創った動きも盛り込んだダンスをします。色ごとに相談をして試しながら楽しく練習しています。また、一輪車も紹介します。この時間で乗れるようになった子もいます。友達同士、「こう動いて」と話しながら挑戦が続いています。力強い掛け声も聞こえます。いろいろな動きだけでなく、自分の立ち位置を決める力、周囲を見て動く力、など様々な力を身に付けるチャンスです。

当日は、緊張しながらも一生懸命頑張ると思いますので、どうぞ皆様応援にいらしてください。



富原小は 今年
創立150周年！



Ⅱ 教育実習 宮田歩実先生

養護教諭をめざして、2週間の実習に富原小に来てくれました。宮田先生は、卒業生だったり、サマースポットと一緒に遊んだり、昨年も研修に来てくれたりしたこともあり、小学生は親近感をもっているようでした。

発育測定やミニ保健指導、5・6年生との授業では、自作イラスト入りの紙芝居や挿絵で分かりやすい説明をしてくれました。児童の目線に立ち、どう伝わっているのかを確かめながら話をしてくれました。

また、休み時間には一緒に遊び、話し、暑さの中での休憩時間の過ごし方を考えてくれました。

こうした出会いは、子ども達にとっても大きな学びです。卒業生が先生をめざして頑張っている姿は身近なモデルとして子ども達に魅力的に映っていることと思います。温かく接してもらえる経験は、いつか自分も誰かにそうできる日がくると考えています。



Ⅲ 保護者の皆様へ

奉仕作業では、運動場の土ならしや草刈り、窓ふき、草取りなど大変お世話になりました。皆様がフットワーク軽くたくさんの作業をしてくださったおかげで、気持ちよく2学期をスタートし運動会の練習が進んでいます。暑い中ご家族で来てくださった方もおられ心から感謝申し上げます。

また、その後の「富原小学校のこれからを考える会」でも多くの方にご参加いただき、忌憚のないご意見を出していただきました。次回以降生かしていきたいと思います。次は10月24日を予定しています。

PTAの「バスボム作り」もフルーティな香りの中でわいわい楽しく過ごすことができました。講師の福山様、役員の皆様ありがとうございました。



調査から見えてくること 生かすこと

学力調査とアンケート結果より

一人一人の児童の成長は様々なことのトータルであり、学力が身に付いたかどうかということは、数値だけでは判断できません。しかし、一つの判断資料として捉え、授業改善を支えることはできます。

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、また、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、4月に3・4・5年生（岡山県）と6年生（全国）を対象に、学力・学習状況調査が実施されました。その結果が公表されましたので、富原小学校の結果の概要をお知らせします。

富原小学校の児童は、基礎的な学力を確実に身に付けているといえます。特に算数では、県の平均と比較しても10ポイント以上上回っている学年もあります。これは、「児童と教員が対話をしたり活動を共にしたり、接する時間が確保できること」「児童一人一人の状況を丁寧に把握しやすい」「一人一人の状況に合わせた指導を行いやすい」という少人数学級だからこその効果が表れていると考えられます。

また、学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けても児童質問調査結果から、本校の取組・改善の効果が表れていることが分かります。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」「学習した内容について分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という学びに向かう力を問われる設問に対して、6年生児童は100%の肯定回答をしています。

課題としては、「計算はできるが、なぜそうなるのかという理論が理解できていない」ということがあげられます。そのためにも、今やっている学習に、主体的に問いを見つけ、どうしてこうなるのか、どうすれば解決につながるのかという考えをもち、自分たちで解を見出そうと交流する「学び合い」が重要になります。また、全員一律の課題を教師から与えられるだけの学習から、発達段階に応じて、自分の学習の見通しをもって進度や理解度を知り、学習の仕方を調整する力を付けることも必要です。そのため、今年度も「自己調整力の育成」として、ICTを活用したり、振り返りを効果的に蓄積して次の学びに繋いだりする授業展開に取り組んでいるところです。そして、こうした学びを一層推進してきます。

調査結果は学力と呼ばれる広い力の特定の一部であり、学校における教育の一側面です。ここからわかることを、富原小が目指す知徳体の総合的な力の育成に生かしながら教育活動を行っていきたいと思います。子どもの学力は、ご家庭の支えや地域の力も大変重要です。引き続き、しっかりと連携をはかってまいりましょう。



1・2学期の授業の様子

思いを知ること（総合）

3・4年生 インタビュー

3・4年生が総合学習の時間に、「富原のなくしたくないもの、好きなのところ、好きなのもの」を1つだけ選んでください、と職員室にインタビューに来ました。たくさん見つけ出し、グルーピングしてまとめてありました。残したいものはたくさんあって、1つに絞るのはとても難しかったです。その理由も聞いてくれました。それぞれに富原への思いがあり、それを知るとは、故郷への理解が進み、愛着をもつことにもつながります。

3・4年生が、まとめをするために写真を撮りたいと、たった今賑やかにやって来て、帰っていきました。完成が楽しみです。



教師業務アシスタントの交代

教師の業務の一部を支援するアシスタントとしてこれまで勤務いただいた 家原緑先生がご退職のため、新たに 石川典恵（いしかわのりえ）先生をお迎えしました。学校のいろいろな場面で子ども達や教職員のお手伝いをしてくださいます。よろしくお願いいたします。